

もっとはばたこう もっと輝こう 私たちの未来予想図

一般社団法人茨城県建設業協会 建女ひばり会 会長 やなせ 柳瀬 かおり 香織

1. 建女ひばり会の始まり

私たち，建女ひばり会は，茨城県内の建設業界で働く女性のネットワーク構築と女性活躍を支援していく会として，2019年に発足しました。業界内での女性の立ち位置はまだマイノリティであり，共通言語の分かる仲間を増やし，より良い環境にしていくことを大きな目標としています。実際の活動としては，見学会や勉強会，意見交換会などを通じて，学びや相互理解を深めるとともに，広報活動を行うことによって，業界のイメージアップや女性の職域の拡大を業界外の方々に伝えています。

発足式では，建設産業女性定着支援ネットワーク（当時は，建設産業女性活躍推進ネットワーク）の須田幹事長に基調講演をいただき，建設業界で働く女性の現状や課題，そしてマクロ環境の変化により業界内が変革期にあることなどを再認識するきっかけになりました。発足当初は約120名の会員数でしたが，現在は187名と，この7年間で着実に会員を増やしてきました。

会が発足して最初のイベントは，東関東跨線橋下部工事の現場訪問でした。この現場では，女性が現場代理人を務めており，働く環境や技術的な取り組みを見学しました。参加者は，建女ひばり

会の会員以外にも，茨城県土木部女性職員，国土交通省関東地方整備局女性職員が一緒でした。快適トイレをはじめ，当時はまだ数少なかった鍵付きの更衣室兼休憩室も見学し，自分たちの理想の環境が把握でき，現実とのギャップや課題が明確になった見学会でした。見学後は，発注者側の女性職員との意見交換の場も設けて，普段話せないような内容についても語り合い，職場環境の悩みに共通の課題があることを確認し合えました（写真－1）。



写真－1 現場見学会 2019

また，技術的な学びとして，CIMの活用事例発表やウェアラブルカメラによる現場管理を実際に見せてもらい，後日談として，この見学会で見た先端技術が社内でのCIM活用のきっかけになった会員もいました。

初イベントとしては大成功だったので，建女ひ

ばり会の活動の軸として毎年行っていきたくて考えていましたが、次はどこへ行こうかと調査したところ、50名近くの参加者を受け入れられるような大規模現場を担当している女性技術者が県内には見当たりませんでした。そこで私たち自身も、そもそも現場を担当している女性技術者が少ないことを知り、現実を思い知らされました。

2. 私たちの環境改善

実際、女性技術者が見つからず現場見学会を開催できないと知った私たちは、マイノリティである女性が働く環境や制度について改善していかなければ、女性就労者自体が増えていけないと思い、私たちが建設現場のパトロールを行うことを企画しました。

パトロール先は、建女ひばり会会員が在籍する会社の中から、「私の現場に来てください」という挙手制で決めました。そのため、環境や制度が整っている会社ばかりが手を挙げるのでは、と思われるのではないのでしょうか。でも、最初はそれでいいのだと思いました。素晴らしい現場をパトロールして、情報が蓄積されていけば、それに倣って環境や制度を改善する会社が出てくると考えたのです。このモデルケースの共有は、会員の所

属する各社のナレッジマネジメントに大きな役割を果たしています。

私たちがパトロールで伺う現場は、男性技術者と女性技術者がペアで配置されているところが多いため、パトロール時には男性技術者にも同席してもらい、建女ひばり会独自のD&Iの観点を取り入れたパトロールチェック表でヒアリングを行っています（表－1）。自社の職場環境を客観的に見ることができる数少ない機会ということで、男性技術者だけではなく経営者の方が同席する会社も多く見られます。

こうしたパトロールの後に、職場環境が改善されたという話を聞くと、私たちの活動が役立っていると非常にうれしく思います。2022年のパトロールでは、産休直前の女性技術者がいる現場へ伺いました。休憩用のソファの設置や事務所内の掃除にはロボット掃除機を採用するなど、会社として社員に長く働いて欲しい気持ちが溢れた現場を見せてもらいました。これからの人財確保には、誰もが働きやすい環境の整備が欠かせないと改めて再認識する機会になりました。

建女ひばり会の活動の中には、会員各社の悩みや課題に関する情報を共有し、解決方法を持っている会社から学んだり、一緒に解決方法を話し合ったりする機会として、会員交流会や茨城県土木

表－1 パトロールチェック表

区分	項目	内容	評価（該当に○）					
			5点	4点	3点	2点	1点	
ダイバーシティに配慮した働き方	1	家庭事情（家事、育児、介護など）を考慮し、必要に応じたサポート体制が整っているか	大変良い	良い	普通	悪い	大変悪い	該当なし
	2	女性など多様な人材の活用を、発注者や近隣住民・学校などに、目に見えるかたちでアピールできているか	大変良い	良い	普通	悪い	大変悪い	該当なし
	3	長時間作業を避けるため、作業の省力化、合理化を心掛けているか	大変良い	良い	普通	悪い	大変悪い	該当なし
	4	多様な人材に配慮したマナーアップへの取り組みや指導を行っているか（5S、喫煙マナー、ハラスメントなど）	大変良い	良い	普通	悪い	大変悪い	該当なし
	5	女性専用トイレや女性専用更衣室など、防犯対策も含めて、誰もが安心して利用できるように配慮されているか	大変良い	良い	普通	悪い	大変悪い	該当なし
チェックシート② 集計 （満点＝25点）		○の合計数→	個	個	個	個	個	
		点数の合計→	1×5点 点	1×4点 点	1×3点 点	1×2点 点	1×1点 点	合計点数 点

部職員との座談会があります。このイベントは、発足当初から毎年行っており、コロナ禍にはオンライン開催していました。会員交流会や座談会は、毎回メインテーマを決めてグループワークを行うという手法で、ナレッジマネジメントのヒントやジェネレーションギャップの解消など、働く女性の立場からさまざまなことを考える機会になっています。

2025 年からは、D & I の観点から茨城県土木部男性職員にも参加してもらい、女性 8 割男性 2 割という業界の構図とは真逆の環境でグループワークを行っています。男性職員からは、建設業で働く女性が日頃感じている疎外感などを肌で感じられたとの声が寄せられました。

当日のグループワークでは、早く帰らせてあげたい男性上司と、もっと仕事がしたい女性部下とで配慮の行き違いが明らかになり、コミュニケーションを取ることの重要性や意見が言える関係性の構築など、自分の身に置き換えて考えなければならない課題を確認できる貴重な機会でした。

意見交換会や座談会の効果は、立場の違う人の意見から解決策が得られる点が一番大きいと言えます。ほかには、社内に女性が少ない地域中小建設会社では、他社とはいえ相談できる友人ができたことが心強いなどの声があります。

ただ、他社の事例のため、そっくり真似ただけではできないこと、自分は取り組みたいが社内の理解が得られないことなどが問題点として挙げられています。そういう話を耳にすると、経営者の学びや理解が環境改善の進捗に大きな影響を及ぼしていると感じています。

学ぶ環境という観点からは、会員が参加できるさまざまな勉強会を企画しています。今の建設業界では、新しい機器や製品が毎年のように誕生し、私たちを取り巻く環境はそれを使いこなすことが求められる、今までにない職域も必要になる時代がくると考えています。そのため、ドローン操縦や建設ディレクターといった新しい職域に関する講習会、ICT 建機や最新測量機器の体験

会、未来の技術である自動施工見学会など、ジャンルを問わずさまざまな機会提供を行っています。

3. 私たちの社会貢献

建設のおもしろさを伝えるイベントとして、2021 年より内閣府男女共同参画理工チャレンジ（女子中高生・女子学生の理系分野への選択）に参加しています。一般社団法人土木技術者女性の会 東日本支部、茨城県石岡市と建女ひばり会の 3 者共催、加えて建設産業女性定着支援ネットワーク、そして協力団体として茨城県にも参加いただいています。

このイベントでは、社会インフラの老朽化が社会問題となっていることから、日本大学工学部土木工学科が考案した住民主導型橋梁セルフメンテナンスの事例を基に、「夏休み！ドボジョと橋をみてみよう！in いしおか」と題して、小中学生による「橋のセルフメンテナンス」の取り組みを行っています。はじめに座学で橋のペーパークラフトを作成し、橋に使われている部材の名称や構造のレクチャーを受け、その後、実際の橋に行き簡易橋梁点検チェックシートを用いて点検を行います（写真－2）。



写真－2 ドボジョ先生との橋梁点検

参加した子どもたちは、「排水溝が詰まっている」とか「高欄が錆びている」など、楽しく真剣に点検し、インフラメンテナンスの意義や重要性について理解してもらいました。こうした取り組み

みの先には、未来を担う子どもたちへのインフラに対する意識づけをして、次世代育成につなげていきたいという思いがあります。

2021年から始まったこのイベントは、2024年には石岡市と笠間市の2カ所で開催、2025年は石岡市で通常開催、日立市では小学校の出前授業として開催しました。また、この「夏休み！ドボジョと橋をみてみよう♪in いばらき」の取り組みについて、一般社団法人土木技術者女性の会東日本支部支部長の沼田直子さんが論文を著述した結果、公益財団法人土木学会が主催する2024年度インフラメンテナンス大賞でインフラメンテナンスチャレンジ賞を受賞しました。これからも長く続けられるイベントとなるように、建女ひばり会の中でしっかりと継承していきたいと考えています。

次は、建設フェスタ（図－1）です。このイベ

ントは、国や県、建設関係団体が一体となって、小学生とその保護者に建設業の魅力や役割を楽しく伝えるために、毎年開催している国内最大級の建設イベントです。約40の発注者や建設関係団体が出展しており、建女ひばり会は、クイズラリー、アンケート、救護授乳室担当として2022年から参加しています。2025年に初めて自分たちのブース「建設業女性活躍コーナー」を出展することになり、茨城県土木部職員と共催しました。

建設業における女性活躍や橋のセルフメンテナンスのパネル展示、橋のペーパークラフト展示などを行いました。また、開催中に2回、橋のセルフメンテナンスを行い、合計40名の子どもたちに土木の楽しさを伝えることができました。また保護者の方々に、建設業界で働く女性がたくさんいることや、女性が働きやすい環境に変わってきていることを直接話せ、非常に有意義でした。

4. 私たちの発信

建女ひばり会では、建設業界で働く女性・働いてみたい女性に向けて、さまざまな発信をしています。一般社団法人茨城県建設業協会のホームページには、建女ひばり会のページもあり、入会案内や会員へのニュースなどを掲載しています。また、ロールモデルを作成しており、新しく入職してきた女性の目標となるような先輩たちのプロフィールを見ることができます。また、Instagramでは、会の活動内容を楽しく発信しています。

最近、少しずつ女性就労者が増えてきている建設業界とはいえ、いまだに建設業における全就労者数の約18%であり、まだまだ女性の働ける職域という社会的認知が低いと感じています。そして、技術者に至っては、建設業における全女性就労者数の約3%と、技術職自体が女性が選べる職域



図－1 建設フェスタ

であるという周知が足りていないと思います。

私は毎年、地元の大学の文系学生向けに寄付講座を行っています。「働く意義 学ぶ意味」という題材から外れなければ自由に話ができる授業で、建設業の施工管理技士の資格について話していますが、施工管理技士が国家資格であることや、この資格がないと現場監督にはなれないことを説明すると皆さんびっくりします。国家資格であることを知っている学生は誰もいない、加えて建設業に従事する人は何も資格がなくても働けると思っている、これが現実です。

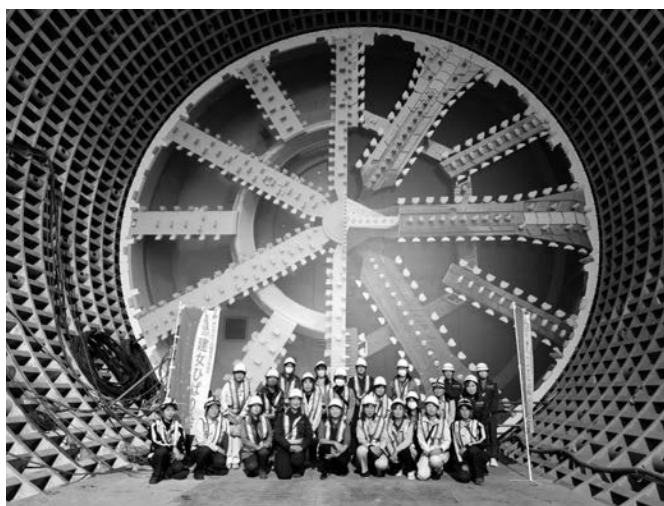
業界内で働く私たちにとっては、「建設業は資格社会」というのが当たり前なのですが、業界外の人々から見た時には、いまだに建設業は仮囲いの中の職業で、分からないことだらけです。毎年、施工管理技士の認知度の低さにショックを受けるわけですが、講座の後に2～3人から「この施工管理技士の資格はどうやったら取れるのでしょうか」と質問を受け、効果的な周知ができれば志してくれる人は絶対にいるはず、という明るい希望ももらっています。

私たちの最大の目的は、たくさんの女性が入職、活躍できるような建設業界づくりです。そのためには、誰もが働きやすい建設業となるよう、さまざまな活動を通して、業界の意識改革や職場環境の改善につながる結果を出していきたいと思っています。業界外では、建設業は女性の仕事ではないという風潮がまだ根強く残っているように思います。ですが、実は建設業こそ、女性のキャリアデザインが容易に描ける業界なのです。

資格社会である建設業だからこそ、公正な人事評価制度を取り入れることで、資格取得によるインセンティブが可視化され、昇給や昇進のエビデンスは非常に分かりやすくなります。そこには男女による給与の差などは存在しないと考えています。そのような業界こそ、私たちが理想として描いている未来予想図であり、多様な人々に選ばれる建設業になるのだと思っています。

私たちの前に道はありませんでしたが、私たちの後ろにはきれいに舗装された道路ができ、後輩たちが安心安全に、そして楽しく働ける環境が整うその日まで、私たち自身も楽しみながら活動が続けていきたいと思っています。

最後に、2019年の初回実施から行えずにいた現場見学会を、2025年11月に国土交通省 関東地方整備局 企画部 技術管理課のご協力により、横浜湘南道路シールド工場の現場にて開催することができました（写真－3）。関係者の皆さまありがとうございました。



写真－3 現場見学会 2025